

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第297回)

日時 平成28年2月2日(火)午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、らせん水車の開発と適用および小水力発電の取り組み

解説 福田真三エナジー(株)専務取締役

3、『新エネルギー関連ニュース NO. 152』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る平成27年12月3日開催の第295回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島稔委員長より「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題してお話がありました。ドイツは2022年までに原発をやめると決定していたが、今後30～50年は、やめられそうにない。北部では再生可能エネルギーの発電所開発が盛んだが、南部は活発ではない。また北部から南部に送電する送電線建設は住民の反対で進まない。日本はこの轍を踏んではいけない。石油、ガス、石炭など、日本はほとんど輸入に頼っており、ドイツのように他国から電力を買う術もない。やはり原発に頼らないと国がもたないではなかろうか。

次に、新エネルギー研究所代表取締役の亀田光昭先生より、「MCH（メチルシクロヘキサン）を利用した施設園芸用燃料電池用水素供給装置による画期的な熱利用システムの研究開発と商品化」と題して解説がありました。水素エネルギーの利用を考えるとネックとなるのが、輸送と保管である。現在、①高圧ガス水素、②液体水素、③MCHに水素を付加する方法の3つが有力だが、③は、常温、常圧で輸送・保管でき、既存のタンカー、タンクローリーなどを活用できるので最も適していると考えます。我々は、触媒を利用して、MCHを、トルエンと水素に分離する特許技術を有しており、この方法で、水素を提供し、すでに確立されているエネファーム（燃料電池・コジェネレーションシステム）により熱と電気を発生させる施設園芸向けシステムを開発中だ。燃料費は半減。非常にクリーンなシステムとなる。イメージしているのは、ハイテクを駆使したオランダの温室栽培だ。オランダのトマトの生産効率は日本の8倍もあり、国土は九州程度にもかかわらず、農業輸出額では世界2位を誇っている。この現代的な農業ならば、若者たちを呼び寄せることにもなり、日本の農業を復活させる起爆剤になるだろう。現在は研究室の実験機でMCHから水素を分離している段階だが、今後、エネファームを製造している企業と共同で、システムをつくり、農家で稼働しながら実証実験を行っていく必要がある。その費用を提供してくれる企業や団体を、現在探しているところである。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.151』の解説がありました。今回は、○高温環境で使用可能なリチウムイオン二次電池の基礎技術を開発。○燃料電池車とLPガス、発電機を利用した災害に強いコンセプトホームが建設された。○波力発電を研究している研究所が、波力発電装置の公開実験を行った。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円に御協力お願い申し上げます。

次回、2月2日（火）の新エネルギー委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

両団体専務理事兼事務局長 清原淳平

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp